

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書

| | |
|-------|------------------------|
| 制作団体名 | 公益財団法人 新日本フィルハーモニー交響楽団 |
| 公演団体名 | 新日本フィルハーモニー交響楽団 |

| 内容 |
|--|
| <p>まず事前に指揮者の動画を送付し、授業等で指揮者の動きや役割などについて研究しておいてもらう。そしてワークショップ当日には、本公演で行う指揮者コーナー(3~4名程度の生徒で指揮のリレー(2回で6~8名程度)をするコーナー)のための事前練習を、ピアノ伴奏に加え弦・管の小編成での室内楽等を取り入れて行う。ここでは実際に指揮者による指導を受け、指揮をする生徒だけでなく どうしたら上手くオーケストラを鳴らすことが出来るかクラスメイトと共に考え、実践する。</p> <p>事前に送付した資料から各生徒が指揮には何が必要かを考え、ワークショップの場ではその疑問を実際に指揮者にぶつけ、そのやり取りや実際に指揮する中で音楽がどのようなものかを実際に感じ取ってもらう。事前にみた指揮コーナーとは違う運命を取り組むこととなるが、キャッチーな冒頭部分をどのように指揮するのか、個性を出すよりよい音楽にするためにはどうしたら良いかを指揮者・演奏者を交えて相談していく過程で、自然と音楽への興味が深まるように期待したい。リラックスして楽しんで頂くことを優先し、演奏の楽しさを五感で感じられる場を提供する。またこのワークショップを指揮体験だけの場にせず、緩急織り交ぜたプログラムで鑑賞も楽しめるよう、飽きがこないような工夫もしていく。</p> |

| タイムスケジュール(標準) | | | | |
|---------------|----------------|-----------------|-----------------|-------|
| 到着 | リハーサル | ワークショップ | 終了・本公演打合せ | 退校 |
| 8:00 | 9:00~ 10:00 | 10:00~ 11:30 | 11:30~ 12:30 | 12:30 |

| 派遣者数 |
|-----------------|
| 演奏者5名 スタッフ1名 |

| 学校における事前指導 |
|---|
| <p>事前に送付するオーケストラを指揮している指揮者の動画をクラスや学年等で鑑賞してもらい、オーケストラや音楽についての興味関心を高める。その上で指揮者の動きの意味・役割について意見を出して話し合ってもらおう。体の動きに関連してどのような音が鳴っているのか、どのタイミングで合図を出しているのかなどについて話し合い、自分たちならどのように指揮をするか話し合ってもらおう。また、ワークショップでは実際に指揮者に質問できるため、疑問に感じた点もまとめておいてもらう。</p> |

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－

本公演実施計画書

| | |
|-------|------------------------|
| 制作団体名 | 公益財団法人 新日本フィルハーモニー交響楽団 |
| 公演団体名 | 新日本フィルハーモニー交響楽団 |

| |
|--|
| 演目 |
| <p>J. ウィリアムズ：スター・ウォーズより「メイン・タイトル」(6分) 久石譲：オーケストラ・ストーリーズ「となりのトトロ」より「さんぽ」ほか抜粋 *楽器紹介(6分) マスネ：タイスの瞑想曲(5分)(Vn ソロ) ベートーヴェン：交響曲第5番ハ短調 op. 67 より第1楽章(7分) 休憩 (10分) <指揮者コーナー>交響曲第5番ハ短調 op. 67 より第1楽章(20分) 学校校歌(4分) 外山雄三：管弦楽のためのラプソディ(7分) アンコール) ロッシーニ：ウィリアム・テル序曲(スイス軍の行進)(3分) 公演時間(約90分、お話し含む)</p> |

| |
|---|
| 派遣者数 |
| <p>指揮者 1名 和田一樹 司会 1名 未定 オーケストラ 61名 スタッフ 9名 合計 72名(予定)</p> |

| | | | | | | |
|----------------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----|-----------------|-------|
| タイムスケジュール(標準) | | | | | | |
| 到着 | 仕込み | リハーサル | 本公演 | 内休憩 | 撤去 | 退出 |
| 09:00 | 09:00～ 10:30 | 11:30～ 12:30 | 14:00～ 15:30 | 10分 | 15:30～ 16:30 | 16:30 |

| |
|--|
| 実施校への協力依頼人員 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ、本公演の打合わせ、当日の進行の確認(1名)をお願い致します。 ・本公演時の生徒席の設営や撤去について、お手伝いをお願い致します。 ・本公演時の奏者控室のご用意、カーテン等が無い場合は着替えのための目張り(新聞紙や模造紙等)をお願い致します。また奏者控室には机といすの用意もお願いします。 ・控室や体育館への案内表示をお願い致します。 |

演目解説

①J. ウィリアムズ：スター・ウォーズより「メイン・タイトル」

演奏会の幕開けは、40年以上にわたって全世界で愛されるハリウッド映画の金字塔から。疾走感・迫力のある曲で子供達の興味を引き付けます。

②久石譲：オーケストラ・ストーリーズ「となりのトトロ」より「さんぽ」*楽器紹介

子供たちおなじみのトトロの「さんぽ」にのせてオーケストラの各セクションを取り上げて楽器紹介を行います。個々の楽器に注目して頂くことで、後半の演目においても楽器の特性や人数、配置によって生み出される演奏の奥深さを感じて頂きます。

③マスネ：タイスの瞑想曲

先ほど楽器紹介したヴァイオリンのソロに注目しつつ、「オーケストラ・ソリスト・指揮者」三位一体の共演を通じてオーケストラの別の一面を見て頂きます。また、ヴァイオリンの音色やテクニク、独奏曲特有の感情的な表現を堪能して頂いた後、奏者への簡単なインタビューも交えて一層の親近感を持って楽しんで聞いていただければと思います。

④ベートーヴェン：交響曲第5番ハ短調 op. 67 より第1楽章)

いわゆる「運命の動機」として有名な冒頭から始まる「運命」は、日本人にとって最も有名なクラシック音楽の1つでしょう。今回演奏するのは30分を超える壮大な交響曲の一部ですが、この後に続く展開に想像を膨らませながら堪能して頂きます。コンサートホールさながらの雰囲気気でオーケストラの醍醐味を味わって頂きます。

⑤<指揮者コーナー>(曲目：ベートーヴェン／交響曲第5番「運命」)

ワークショップで学んだ指揮を児童・生徒自身に披露して頂きます。指揮をするのは実際のオーケストラ。ワークショップの時とは比べ物にならない音圧とその音楽の広がりを目一杯感じ取って頂きたいと考えております。また、クラスメイトが実際に指揮をすることで見ている生徒も一層興味を持った音楽体験が出来るはずです。

⑥学校校歌

いつもピアノ伴奏で歌っている校歌をオーケストラによる編曲で演奏します。聞きなれた音楽がどのように変化しているのかを楽しんでください。

⑦外山雄三：管弦楽のためのラプソディ

クラシック音楽は西洋の文化を発祥としていますが、現在では日本の優れた作曲家の作品も頻りに演奏されています。日本を代表する指揮者/作曲家である外山雄三による本作は、日本の童歌や民謡を素材に作られたとてもユニークな作品です。拍子木、鉦、締太鼓、チャンチキなど、様々な日本の打楽器が複雑に絡み合ったリズムに乗って「手まり唄」、「ソーラン節」、「炭坑節」などの伝統音楽がオーケストラによって次々に演奏されていきます。

⑧アンコール) ロッシーニ：ウィリアム・テル序曲(スイス軍の行進)

演奏会ではアンコール曲も楽しみの1つです。ロッシーニ作のウィリアム・テル序曲より「スイス軍の行進」で、迫力あるトランペットのファンファーレと疾走感のある曲で、子供たちに最後まで興味津々に楽しんで頂けます。

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

・指揮者コーナー

1 曲の中で 3~4 名程度の生徒で指揮のリレーをして (2 回で 6~8 名程度)、どうしたらオーケストラを思うようにコントロール出来るかなどをワークショップで話し合ったのち本公演の場で披露してもらいます。運命の冒頭の個性が発揮される部分で、どのような演奏がしたいか、他の指揮者はどんな演奏をしているかなど、自然と音楽へ興味を持ってもらう事ができます。

・学校校歌

普段おそらくはピアノ伴奏でしか歌うことのない校歌を、予めオーケストラ伴奏に編曲し、様々な楽器の音色と迫力を感じながらハーモニーの素晴らしさを感じてもらいます。

児童生徒とのふれあい

聴き馴染みのある楽曲であることと、クラシック音楽を体現する素晴らしい作品を取り上げることが意識して選曲した。曲間にお話も交えることで、初めての体験であっても抵抗なくオーケストラの演奏に触れることができる。緩急様々な楽曲を配することで、迫力ある響きや繊細な音色を自在に操り、主役にも脇役にも成りうるオーケストラの多面的な魅力を表現したい。

また、指揮体験や校歌の編曲を聞いて頂くことでオーケストラとの一体感を持って頂き、音楽を介した相互の交流を図りたい。本公演においては、楽器紹介や共演等様々な切り口から、オーケストラの魅力を体系的に理解して頂くことを目指している。